

まじゅつし
インクの魔術師
いんさつしょくにん
スクリーン印刷職人



よこはましぎのうぶんかかいかん
横浜市技能文化会館

いんさつしょくにん スクリーン印刷職人って どんなしごと？

わく は ぬの かた つく はん ぬの あみめ
枠に張った布で型を作り(版といいます)、その布の網目
ちい あな とお かみ ぬの いんさつ ぎじゅつ
の小さな穴からインクを通して紙や布に印刷する技術です。

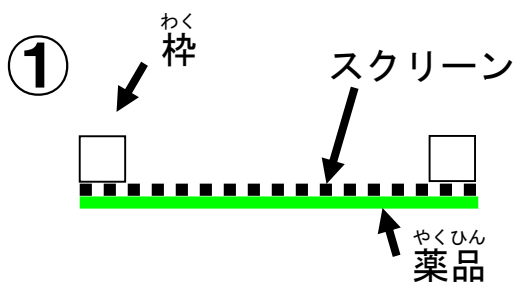
せいしき いんさつ な とお
正式にはシルクスクリーン印刷といい、その名の通りシルク
きぬ はん ざいりょう ぎじゅつ しんぽ
(絹)を版の材料にしていました。しかし技術の進歩によりシ
ルクのかわりにこま あみ は か
細かいポリエステルの網を張ったものに変
わっています。

みず くうきいがい すべ いんさつ い
「水と空気以外なら全て印刷できる」と言われるほど、いろ
いんさつ ぎじゅつ
いろなものに印刷ができます。そのため、この技術はたくさ
つか かみ ぬの
んのものに使われています。紙や布はもちろん、テレビのロ
きばん
ゴマークやパソコンの基盤、スマートフォンのアンテナにまで
いんさつ わざ み
スクリーン印刷の技を見ることができます。

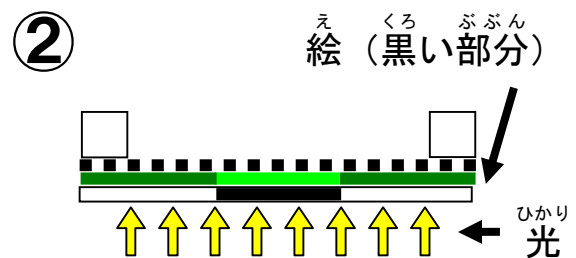
むかし すべ てさぎょう いんさつ さいきん きかい つか
昔は全て手作業で印刷していましたが、最近は機械を使
おお てさぎょう しごと
うことも多くなってきました。しかし手作業の仕事をなくな
ったわけではありません。ひと て いんさつ
人の手でなくてはできない印刷
ぎじゅつ
技術もまだまだあるのです。

いんさつ わざ スクリーン印刷の技その1

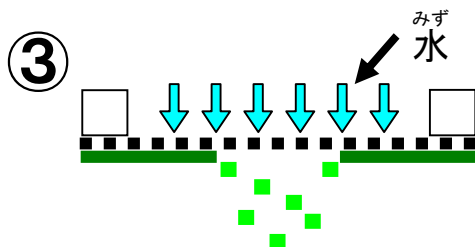
☆スクリーン印刷のしくみ



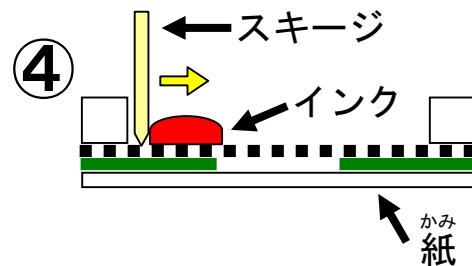
こま あな
細かい穴のあいたスクリーン
ひかり あ かた とくしゅ
に、光を当てると固まる特殊
やくひん
な薬品をぬる。



いんさつ え した
印刷したい絵をおき、その下
つよ ひかり あ やくひん
から強い光を当てて薬品を
かた
固める。



みず あら かた え
水で洗う。固まらなかった絵
ぶぶん あら なが
の部分が洗い流される。



インクをのせ、スキージという
ヘラで平らにのばす。



あら なが あな はい
洗い流された穴にインクが入
る。

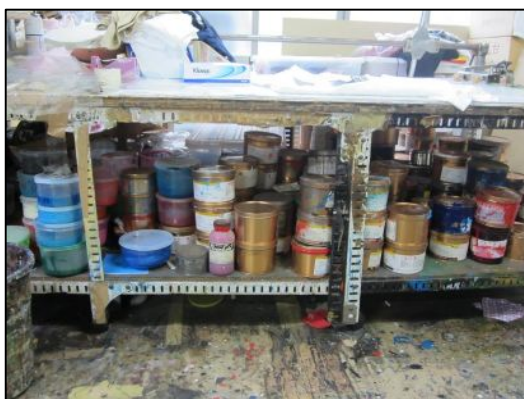


かみ はず
紙を外すとインクが印刷され
ている。

いんさつ わざ スクリーン印刷の技その2

てきぎょう いんさつ ばあい おな いんさつ
手作業でたくさん印刷する場合、ひとつひとつがまったく同じように印刷されな
ければなりません。そこで「自分が機械になる」と言われるように、正確な動きが
ひつよう たいへんこんき
必要となります。大変根気のいるしごとです。

しかし、スクリーン印刷の技のすごいところはそれだけではありません。何種類
もあるインクをまぜ、依頼人の望む色を出すのに大変な知識が必要になります。
「つまようじの先にちよつとつけた色をまぜる」といったような微妙な色合いを出す
ぎじゆつ いんさつちゆう かた ぐあい かん て ちから
技術をもっています。また、印刷中もインクの固まり具合を感じながら手の力を
ちようせつ じゆう あやつ まじゆつし
調節します。まさにインクを自由に操る魔術師です。



↑ たくさんのインクの缶 かん

いろ みほん
↓ 色の見本

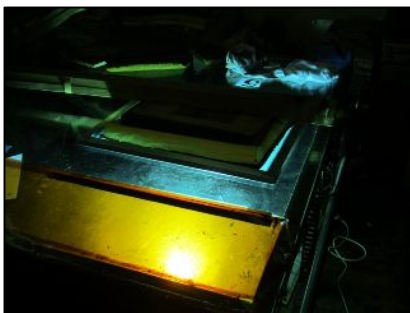
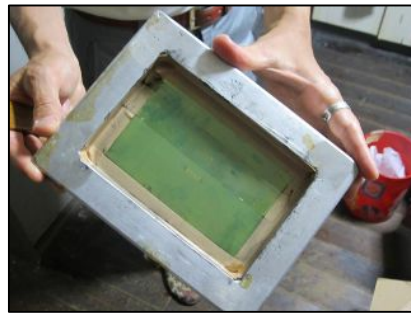


いんさつ どうぐ スクリーン印刷の道具

いんさつぎじゅつ きかい か
スクリーン印刷技術の機械化によって、いろいろな最新技術が使われた機械が作
りだされています。しかし、てさぎょう おこな いんさつ ばあい しょくにん くふう つく
道具がつかわれています。



とくしゅ やくひん はん おお
↑ 特殊な薬品をぬった版。大きさはいろいろです↑



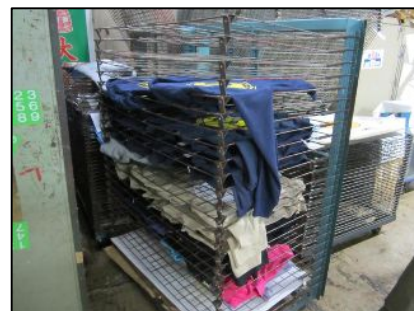
きょうりょく ひかり
↑ 強力な光をあてるライト。



↑ スキージ。



はん こてい きかい
↑ 版を固定する機械。



かんそうだい
↑ 乾燥台。

スクリーン印刷の歴史

スクリーン印刷の技術はまだ新しく、100年くらいと言われている。しかし、スクリーン印刷の元となった印刷技術は日本にもあります。それは「捺染型紙」とよばれる技術で、1000年の歴史がある技術です。この「捺染型紙」や西洋の「ステンシル」という印刷方法を元に考え出されたのがスクリーン印刷と言われています。

☆横浜のスクリーン印刷

開国当時、シルクスクリーン印刷の材料となるシルク製品のほとんどが横浜に集められ、横浜港から出荷されました。また、外国の新たな技術が入ってくるのも横浜港からでした。そうして日本各地から横浜に集まった職人たちは外国の技術を取り入れ、その技術を発展させていったのです。

中でもシルクスクリーン印刷技術を使ったスカーフは「横浜スカーフ」といわれるほど大きな産業となりました。かつては国内のメーカーの約9割が横浜にあったと言われています。

いんさつ みりょく スクリーン印刷の魅力

げんえき しょくにん しごと おもしろ き
現役の職人さんに仕事の面白さを聞きました！

ゆうげんがいしゃ かのう かのう
☆有限会社 加納スクリーン 加納さん

じぶん おも いろ で おも いんさつ
自分の思ったとおりの色が出て、思ったとおりの印刷ができるととてもうれ

しいです。それは色を作るのだったり、印刷方法だったりに苦労したもののほど

おもしろ かん
面白く感じます。

また、スクリーン印刷のすべての工程を分かっていると、印刷に関してのオ
ールラウンドプレイヤーになれます。



こどものころ しょくば あそ ば
こどもの頃は職場が遊び場だっ
たという加納さん。こどもの頃か
ら印刷のお手伝いをしていたそ
うです。

いんさつしょくにん スクリーン印刷職人になるには？

スクリーン印刷を取り扱っている会社に入るのが一番の
近道です。最近ではパソコンで版のものの絵を作るので、パ
ソコンの技術が必要となってきました。また、色やデザイ
ンのセンスも必要となるので、美術系の学校で学ぶと役に
立ちます。

手作業で印刷する職人も、機械で印刷する職人もそれぞ
れに独自の技術があります。現在もいろいろなものにスクリ
ーン印刷技術が使われているため、今後どちらもなくならな
い職業と言えるでしょう。